

14. 宇治は火工廠の中でも、日本最大の火薬製造工場

フェイスブック掲載日 2021/9/7

西山卯三氏著「戦争と住宅」には第 18 章「宇治火薬製造所」の前に第 17 章「日中戦争」があり、ここで、応召から宇治火薬製造所までの経過が語られています。

西山氏は 1937 年に召集令状を受け、「東京の陸軍火工廠に出頭せよ」との命令で陸軍火工廠本部に出頭、宇治火薬製造所への配属が決まったが、しばらくは本部の技術課付として、最初の仕事が、宇治火薬製造所に新しくつくる黄色薬(ピクリン酸)製造工場 2 棟の建設設計でした。時あたかも日中戦争が始まり、臨時軍事費特別会計予算が交付され、戦争という大浪費のスタートが始まった時期であり、火薬製造所の拡張もその中に含まれていました。氏はこの章で「宇治は火工廠の中でも、平時は全軍隊の需要の半分をまかなっていた日本最大の火薬製造工場である。その拡充の仕事に私は組みこまれた。私の仕事はむろんこの予算によるもので、『臨軍費』(臨時軍事費)の印である臨とかいたハンコがすべての書類におしてあった。」と回想しています。

私は、この書物に出会い、宇治火薬製造所の規模について、いままで「西日本最大の火薬製造拠点」と表現していましたが、認識を改めざるを得ません。みなさんから「原文を読み、第 1 次資料に当たれ」とのアドバイスがあればこそ、の得難い情報だと思えます。

※ 写真は旧宇治火薬製造所(現在は陸上自衛隊宇治駐屯地関西補給処)に現存する火薬乾燥棟です。

